

令和元年度林木育種成果発表会を開催

令和2年2月14日(金)、東京都文京区の東京大学弥生講堂一条ホールにおいて、令和元年度林木育種成果発表会を開催し、国や都道府県等から、約120名の方にご来場いただきました。



写真1 挨拶中の林木育種センター 上所長

当日は、上所長の開会挨拶の後、鹿児島大学農学部の寺岡行雄教授から、「育林から生産・利用へ、そして再造林の時代へ」と題した特別講演、また、北海道立総合研究機構林業試験場保護種苗部育種育苗グループ今博計主査から、「クリーンラーチ種苗の増産技術開発とその普及」と題した特別報告をそれぞれいただきました。



写真2 特別講演中の鹿児島大学 寺岡教授



写真3 特別報告中の北海道 今主査

続いて、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者等から、次の8課題について発表しました。

○令和元年度の品種開発

育種部 育種第一課 育種調査役 山野邊 太郎

○スギ、カラマツ等のゲノム基盤の整備と育種の高速度化

育種部 育種第一課 基盤技術研究室長 三嶋 賢太郎

○原種苗木増産技術の開発

育種部 育種第二課長 田村 明

○関西育種基本区におけるヒノキエリートツリーの選抜と特定母樹の取組

関西育種場 育種課 育種研究室長 三浦 真弘

○九州育種基本区におけるスギ特定母樹の申請と普及への取組

九州育種場 育種課長 久保田 正裕

○コウヨウザン研究最前線

遺伝資源部 保存評価課長 磯田 圭哉

○フィンランド自然資源研究所との共同研究

海外協力部 海外育種情報主幹 小林 大樹

○ゲノム編集技術を用いた無花粉スギの開発

森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室長 小長谷 賢一



写真4 発表中の関西育種場 三浦育種研究室長

発表後の質疑応答では、今回の品種開発に用いた前方選抜の方法、管穂を用いたさし木増殖のこれまでの経緯、成長に優れたコウヨウザン種子の入手の見込みなどについて、国や都道府県の行政担当者や研究機関の研究者等から多くの質問が出され、最近の林木育種の動向への関心の高さが伝わってきました。

今日、林業の成長産業化、地球温暖化対策、花粉発生源対策などの推進について、林木育種に対する社会的ニーズが益々高まっています。今回の成果発表会を本年度の取り組みの一つの区切りとして、ご来場いただいた皆様からの各発表に対するご意見、ご要望等も踏まえながら、次のステップに向けてさらに研究開発を進めて行く考えです。

(企画部 育種企画課 立花 紀之)

表紙タイトル写真

ドロノキの直さし試験地設定のための採穂の様子です。

林木育種情報 No.33

令和2年3月27日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター
〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000 (代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>